

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2018年1月24日 (Vol.145) 「鶴」

「鶴」

今回から「季語に遊ぶ」と題し、めぐりくる季節その時々々の風物詩とそれを詠んだ俳句+αをお届けします。

今回は、第1回ということで、おめでたいことの起こる前兆とされる瑞鳥（ずいちょう）で、優雅で気品溢れる姿は古来より日本画などによく描かれている鶴を取りあげます。



By Maruyama Ōkyo (Japan, 1733-1795) [Public domain], via Wikimedia Commons
[https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3ACranes_LACMA_M.2011.106a-b_\(1_of_20\).jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3ACranes_LACMA_M.2011.106a-b_(1_of_20).jpg)

1. 鶴と俳句

毎年10月ころになると、シベリアやアムール地方などで繁殖した鶴が日本の南部に渡ってきます。種類は鍋鶴（なべづる）が最も多く、真鶴（まなづる）がこれに次ぎます。

その数は鹿児島県出水（いずみ）市には約8,000羽の鍋鶴と約2,000羽の真鶴、合計10,000羽以上が、山口県周南市には数10羽の鍋鶴が飛来します。

稀に袖黒鶴（そでぐろづる）、黒鶴（くろづる）、姉羽鶴（あねはづる）、カナダ鶴などが混じります。

まづ数羽の先発隊が渡ってきて、飛来地の確認をするのでしょうか、その数日後大群が渡ってきて田や沼を餌場として冬を越し、春になると北方へ帰ってゆきます。

俳句の季語で「鶴来（つるきた）る」、「鶴渡（つるわた）る」は秋季とし、

「引鶴（ひきづる）」、「鶴帰（つるかえ）る」は春季とされています。

なお、日本における丹頂鶴は留鳥で季節による渡りはありません。

ここでは、鶴にかかわる季語の解説と詠まれた句を新年から順に選んでみました。

<新年の季語>

「鶴の庖丁（つるのほうちょう）」

正月17日、または19日に行われた舞御覧の前儀として、鶴を儀式的な作法で調理して、天皇にご覧に入れた行事。

吉祥の形に切られた鶴の肉は調理され、舞御覧の間に御前に供進されました。

江戸時代には鶴の肉は「三鳥二魚」と呼ばれる五大珍味の一つとして珍重されていました。

「三鳥二魚」とは、鶴、雲雀（ひばり）、鶺鴒（ばん）、鯛、鮫鱈（あんこう）のことです。

鶴料理るまな箸浄くもちひけり（鶴料理る=つるつくる）（浄く=きよく）

杉田久女（すぎた ひさじょ）（1890-1946）

吉祥の鶴の包丁鶴の肉
松田ひろむ(まつだ ひろむ) (1938-)

<春の季語>

「引鶴 (ひきづる)」「鶴帰 (つるかえ) る」

秋に日本に渡ってきた鶴が、3月ころ北方に帰ることをいいます。
2,000キロもの距離を、中継地点で休息を取りながら飛んでゆくことが知られています。
鶴が整然とV字形に列をなして飛んでゆく姿には感動を覚えます。

引鶴の天のととのふ真昼かな
原裕(はら ゆたか) (1930-1999)

引鶴の消えし眼鏡を拭ひけり (拭ひけり=ぬぐひけり)
大串章(おおぐし あきら) (1937-)



朝日と鶴

「鶴の巣」

現在、日本で繁殖する鶴は留鳥の北海道の湿原地帯の丹頂鶴だけです。
4月下旬から5月にかけて人や動物が接近できない湿地上に、小枝や葦を折り曲げて
1.5メートルくらいの巣を作ります。
江戸時代には、江戸近郊の三河島村(現在の荒川区近辺)に丹頂鶴の飛来地があり、
手厚く保護されていました。

鶴も巣を今日かけ初めむ雛の宿 (初めむ=そめむ) (雛=ひな)
松岡青蘿(まつおか せいら) (1740-1791)

<夏の季語>

鶴を詠んだ夏の季語はありません。

<秋の季語>

「鶴来 (つるきた) る」「鶴渡 (つるわた) る」「田鶴 (たづ) 渡る」

秋になると鹿児島県出水市や山口県周南市に鍋鶴や真鶴が渡ってきます。
飛来地では冬の間の餌を十分に準備し、ねんごろな餌づけが行われています。

大空を飛翔してくる姿は美しく、鶴目当ての観光客も増えています。

鶴の来るために大空あけて待つ

後藤比奈夫(ごとう ひなお) (1917-) (現在 100 歳)

鶴来るや新藁の香の納屋に満ち(新藁=しんわら)(納屋=なや)

大岳水一路(おおたけ すいいちろ) (1927-2014)



出水の鶴

<冬の季語>

「鶴」

「鶴は千年、亀は万年」など鶴は長寿の象徴とされ、また容姿の美しさもあって、古くよりめでたき鳥とされてきました。

俳句の季語において「鶴」のみとか「〇〇鶴」の場合は冬の季語になります。

鶴舞ふや日は金色の雲を得て

杉田久女(すぎた ひさじょ) (1890-1946)

祝ぎの如夕焼の鶴仰がるる(祝ぎの如=ほぎのごと)

阿波野青畝(あわの せいほ) (1899-1992)

白ジャケツ鶴の聖女の旅途中

平畑静塔(ひらはた せいとう) (1905-1997)

「丹頂鶴(たんちょうづる)」

丹頂鶴はその美しさから、日本において折鶴、千円札、昔話などで親しまれてきました。全長 100-150cm、翼開長約 240cm、雌雄同色ですが、雄の方が大きく、鶴の種類としては日本で最大。

頭のとっぺんが赤いので丹(赤)頂です。

北海道東部の釧路、根室、十勝地方の湿原地帯に棲み、雑食で昆虫や甲殻類、カタツムリやタニシなどの貝類や葉や芽、果実などを食べます。

冬には家族が合流した群れを作り、2010 年における繁殖ペアは 345 ペアが確認されています。

亦白し丹頂鶴の吐く息も(亦=また)

相生垣瓜人(あいおいがき かじん) (1898-1985)

初テレビ丹頂鶴を啼かせけり
安住敦(あずみ あつし) (1907-1988)



cyberfox [CC BY 2.1 jp (<http://creativecommons.org/licenses/by/2.1/jp/deed.en>)], via Wikimedia Commons
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:%3AJapanese_kraanvogels_in_Akan_International_Crane_Centre%2C_-24_februari_2012_a.jpg

「鍋鶴 (なべづる)」

鍋鶴は全長 90-100cm 前後、翼開長 160-180cm くらい。

鶴の仲間としては中形です。

雑食で、植物の根、昆虫、両生類などを食べます。

鍋鶴は「くろづる」という名で鎌倉時代より知られ、江戸時代には日本各地に渡来していました。

明治以降は鹿児島県の出水平野、山口県周南市が知られていますが、それ以外の地域においても、少数が越冬することがあります。

名前の由来は体の色が鍋底の煤 (すす) に似ていたところから。

鍋鶴も項は白し初明り (項＝うなじ)

山口青邨(やまぐち せいそん) (1892-1988)



By Spaceaero2 (Own work) [CC BY-SA 3.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0>)], via Wikimedia Commons
https://commons.wikimedia.org/wiki/File:%3AGrus_monacha_at_Nakagawa_town%2CTokushima.jpg

「真鶴（まなづる）」

真鶴は全長 120-155cm。

翼を広げると 2m ほどもあります。

水辺の小魚、蟹、蛙など小動物や草の根や実を食べます。

鹿児島県出水平野には、稲刈りが終わると前後して、数 10 羽単位で飛来し、11 月には鍋鶴など他の鶴とともに埋めつくされます。

真鶴はその肉が美味しいので真菜（まな）鶴と呼ばれるようになったとか。

啼きつれて群れ真鶴の頬の紅

上村占魚（うへむら せんぎょ）（1920-1996）



By Spaceaero2 (Own work) [CC BY-SA 3.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0>)], via Wikimedia Commons
https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3AWhite-naped_Crane_at_Saijyo_Ehime2.jpg

<冬の季語>

「凍鶴（いてづる）」

厳冬下、自然の猛威から身を守るため鶴が片足で立ち、首を翼の間に挟み、凍りついたように身うごきしないさまを表したもの。

鶴は優美な姿ゆえに、どことなく品位を感じさせてくれます。

その姿に感銘を受け、冬の季語としたものと思われます。

ひとりがきして凍て鶴の凍てを解く

能村登四郎（のむら としろう）（1911-2001）

鶴凍てて花の如きを糞りにけり（糞り＝まり）

波多野爽波（はたの そうは）（1923-1991）



凍鶴

私も詠んでみました。

凍鶴よ躊躇へば陽がなくなるぞ（躊躇へば＝ためらへば）（陽＝ひ）
白井芳雄

2. 鶴と紋

日本人は姓とともに独自の紋を持っています。

『日本家紋総監』には著者の千鹿野茂(ちかの しげる) (1927-2014)氏が全国の墓石から集めたという家紋が2万件も記載されています。

紋に使われた素材は四季折々の草花や動物、日用品など多岐にわたっています。

ここでは、亀とともに長寿の象徴として崇（あが）められ、厳島（いつくしま）神社の

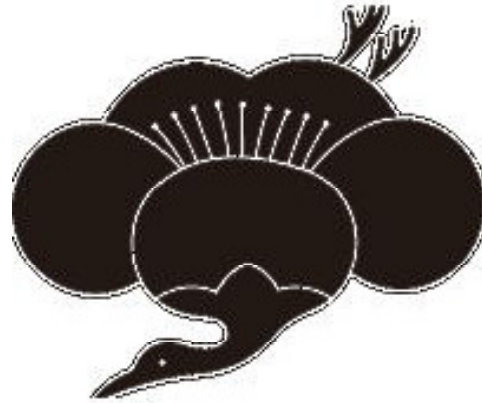
『平家納経』の表紙や『北野天満宮絵巻』にも見られるなど古くから意匠として用いられてきた鶴と稲の穂や梅、橘、桔梗、菊など植物をはじめ、熨斗（のし）や稲妻まで鶴との融合を見せている紋を紹介します。

出典 家紋ドットネット <https://kamon.myoji-yurai.net/>

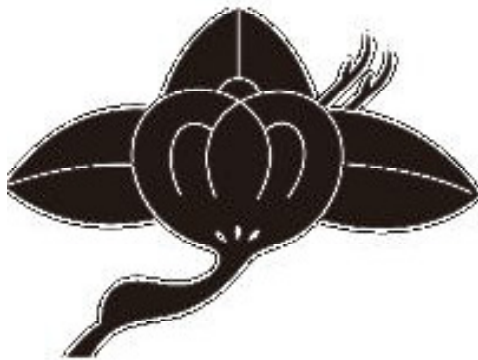
① 稻鶴



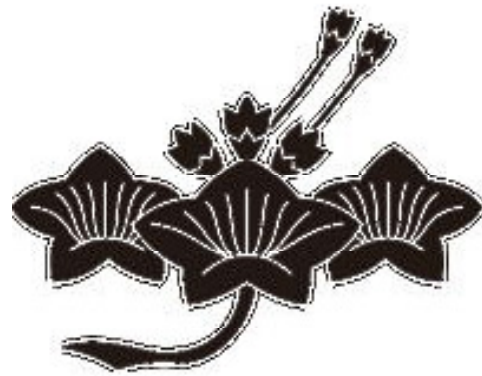
② 梅鶴



③ 橘鶴



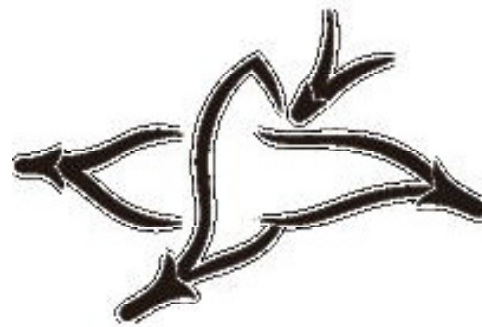
④ 鶴桔梗



⑤ 菊鶴



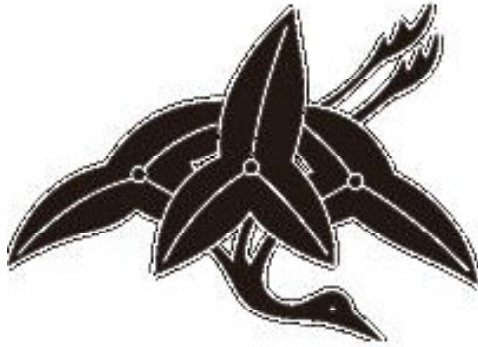
⑥ 松葉鶴



⑦ 沢瀉（おもだか）鶴

おもだかは水田や沼、沢などの水辺に自生する多年草。

おもだかは別名「勝ち草」といい、戦陣の縁起物とされ多くの武将に好まれました。



⑧ 梶の葉鶴

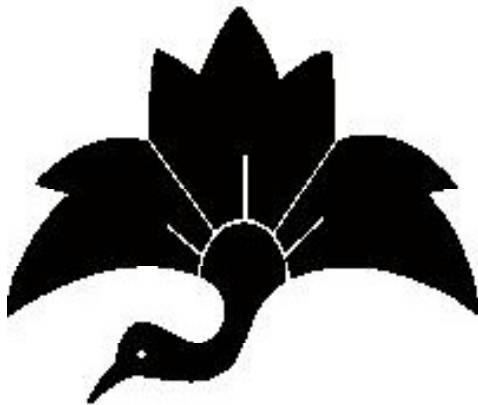
梶はクワ科の落葉高木。

梶の木が神社の境内などに多く生えていたことから神木として尊ばれています。



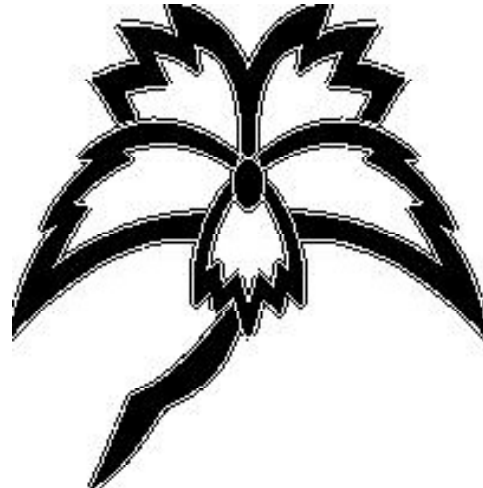
⑨ 鬼花菱鶴

菱模様は池や沼、河川に自生する水草を描いたもの。



⑩ 中陰鬼蔦（ちゅうかげおにつた）鶴

樹木などからまって繁殖する蔦の性質をめで、紋として使用したとされています。



⑪丸に丁字（ちょうじ）鶴

丁字はモルッカ諸島が原産のフトモモ科の常緑高木。

日本でも古くから知られており、正倉院御物の中にもあります。



⑫稲妻鶴

稲の収穫前に雷が鳴ると雷神が稲穂をはらませ豊作になるといわれました。

江戸時代に「稲夫」が「稲妻」になりました。



⑬熨斗（のし）鶴

熨斗紋は、熨斗あわびの形を図案化したもの。

熨斗あわびとは、あわびの肉をうすく剥いでのしたもので、熨斗あわびは、のちに紙で代用されるようになりました。



⑭祇園守（ぎおんまもり）鶴

祇園守とは、京都東山にある八坂神社のお守りのことで、祇園社の森の図案化、

キリスト教の十字架の図案化、牛の頭部の図案化という三つの説があります。

キリシタン大名やその家臣がクルス紋を祇園守紋に変えて使用したとされています。



⑮鶴菱



⑯亀甲（きっこう）に鶴の丸
亀甲は長寿とされる亀の甲羅を図案化したもの。



今回は「鶴」を詠んだ句と「鶴」を意匠として用いた紋をお届けしました。

全体を通じての参考文献、出典：飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修
『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）
ISBN978-4-06-128972-7

『角川俳句大歳時記 新年』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621035-4 C0392

『角川俳句大歳時記 春』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621031-1 C0392

『角川俳句大歳時記 秋』（角川学芸出版）
ISBN978-4-04-621033-3 C0392

『角川俳句大歳時記 冬』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621034-6 C0392

白井明大・有賀一広
『日本の七十二候を楽しむー旧暦のある暮らしー』（東邦出版）
ISBN978-4-8094-1011-6 C0076

千鹿野茂
『日本家紋総監』（角川書店）
ISBN4-04-031500-6

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)
家紋ドットネット <https://kamon.myoji-yurai.net/>

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F
TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com